

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：32605

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K18489

研究課題名（和文）現代中国のキリスト教徒に対する国外からの宣教支援

研究課題名（英文）Foreign missionary support for Christians in contemporary China

研究代表者

中生 勝美（NAKAO, KATSUMI）

桜美林大学・リベラルアーツ学群・教授

研究者番号：00222159

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,400,000円

研究成果の概要（和文）：コロナの影響で、初年度と最終年度のみ出張調査できた。そこで計画を変更し、日本国内での資料収集、キリスト教弾圧というテーマでの五島、島原、天草の調査、モンゴルから北海道に移住した宣教師調査、上海の図書館でのキリスト教関係の資料調査、上海のプロテスタント教会礼拝など活動に出席し、中国のキリスト教の現状を調査した。

中生は、中国キリスト教の研究動向の論文を発表し、都馬バイカルはモンゴルキリスト教に関する文献収集とインタビュー調査に基づき、国際会議で口頭発表を行った。徐亦猛は、中国の西洋ミッションの土着化的な宣教についての研究を進め、口頭発表と論文を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

コロナの流行により、海外調査は初年度と最終年度のみ可能になった。そこで日本国内で資料収集に変更し、キリスト教弾圧というテーマでの五島、島原、天草の調査、モンゴルから北海道に移住した宣教師調査、神戸の中華教会の資料調査をした。海外調査は、アメリカの文書館、上海の図書館でのキリスト教関係の資料調査、上海のプロテスタント教会礼拝に出席して調査した。

中生は、中国キリスト教の研究動向の論文を発表し、都馬バイカルはモンゴルキリスト教に関する文献収集とインタビュー調査に基づき、国際会議で口頭発表を行った。徐亦猛は、中国の西洋ミッションの土着化的な宣教についての研究を進め、口頭発表と論文を発表した。

研究成果の概要（英文）：Due to the corona epidemic, our overseas research was possible only in the first and final year. Therefore, we changed our plan from overseas research to collecting materials in Japan, and conducted a survey of Goto Islands, Shimabara, and Amakusa on the theme of Christian suppression, a survey of missionaries who emigrated from Mongolia to Hokkaido, and a survey of materials on the Chinese church in Kobe. As for overseas research, he investigated the current state of Christianity in China by attending activities such as a survey of Christian materials at an American archive and a library in Shanghai, and a Protestant church service in Shanghai. Nakao published trends in Chinese Christianity, and Doma Baikar gave an oral presentation at an international conference based on her collection of literature and interview research on Mongolian Christianity. Xu Yizhong conducted research on the indigenizing mission of Western missions in China and presented an oral presentation and papers.

研究分野：文化人類学

キーワード：キリスト教弾圧 クリスチャンの民俗調査 キリスト教の宣教モデル キリスト教の土着化 輔仁大学 西洋ミッションの宣教戦略

1. 研究開始当初の背景

現在、中国のキリスト教徒の総数は、1億3000万人に達するとも言われており、人口の約1割がクリスチャンである。中国では、1989年の天安門事件を経て、1990年代になると社会主義の枠組みを維持しながら、経済発展による所得増加で、民衆の社会的不満を解消してきた。しかし1990年代末、法輪功による政府批判デモを契機に、中国政府はカルト取締の名目で宗教全体が監視の対象とされ、公認された宗教にも規制を加えはじめた。

桜美林大学は、キリスト教主義の大学であり、特に創設者清水安三は1917年に同志社大学神学部卒業後に中国へ宣教師として派遣され、1921年に北京で貧民救済事業として崇貞学園を始めたことが大学のルーツとしてあるので、中国のキリスト教研究を課題として共同研究を始めていた。

2. 研究の目的

従来の中国を中心とする東アジアのキリスト教の研究は、政治的な問題となるのを避けて、歴史と神学の研究に限定する傾向がある。中国研究一般に目を向けると、現地調査を必要とする社会科学系の研究は、現政権の政策の影響を受けて、ほとんど調査許可が下りない状況が続いている。また歴史学も、文書館(档案馆)が継続して訪問しているにも関わらず、文書公開が極めて制限され研究が進まないために、一次資料を使った研究が極めてむづかしい状態が続いている。そこで国外から中国本土に宣教支援している団体を組織的にヒヤリングすることで、海外からのキリスト教団体の支援実態、およびそこから判明する中国国内のキリスト教の全体像を把握することを目的とした。

3. 研究の方法

中国国内での調査はできないため、国内のキリスト教団体への支援をしている香港、台湾、韓国、モンゴル国での宣教支援実態を調べる計画を立てた。

香港では、漢語基督教文化研究所に赴き、中国本土の宣教活動の概要と、香港からの支援状況、出版物事情などを調査する。台湾では、長老教会が中心となって中国大陸での伝道支援活動をおこなっている現状を調査する。韓国では、中国から韓国へ出稼ぎ労働をしている朝鮮族に対して支援、及び中国東北部を中心に、不定期に牧師を派遣する活動、脱北者支援活動の調査を計画した。モンゴル国では、中国の内モンゴル自治区に対する宣教している実態を調査する。

4. 研究成果

本研究も、新型コロナ感染拡大による海外渡航の制約により、海外調査は初年度と2年度、および延長、再延長で最終年度しか実施できず、多大な影響を受けた。

2018年度は台湾・香港・中国内モンゴル自治区で実地調査をおこない、資料収集、学会発表をおこない、研究分担者の徐亦猛が編集する論文集に、徐亦猛と中生勝美が執筆し、福岡女学院大学キリスト教センター・徐亦猛編『東アジアに於ける平和と和解』かんよう出版(2019年)を出版した。

2019年度は、徐と中生は、香港バプティストカレッジ図書館、および香港バプティスト教会での調査を実施した。また徐亦猛は、香港バプティストカレッジで開催された国際会議で発表した。都馬バイカルは、モンゴル国で開催された国際シンポジウムで発表した。

2020年度は、新型コロナのまん延により海外渡航、さらに国内調査も制限されたので、自宅にて、これまでの調査をまとめる作業をおこなった。都馬バイカルは『スウェーデン宣教師が写

した『失われたモンゴル』(桜美林大学出版会、2021年)を出版し、これまでの成果の一部を公表した。

2021年度は、文献研究により、これまでの研究の公表をおこなった。また中生は、クリスチャンの弾圧を比較するため、日本の事例として長崎の五島列島に潜伏キリシタンの調査を行った。徐亦猛は、日本国内調査として、佐世保市立図書館、長崎市立図書館、神戸市立図書館と神戸中華教会で来日の華僑キリスト教者の活動の研究に着手した。

2022年度は、海外渡航が可能となり、国内調査も実施した。中生勝美は、キリスト教の弾圧の歴史を比較検証するため、熊本県の島原の乱の跡地と天草を調査した。8月にアメリカのワシントンDCにて、戦前の中国キリスト教の布教状況に関して、アメリカ公文書館、および議会図書館にて調査を行った。2023年2月には、台湾輔仁大学の大学史資料室と図書館にて、戦前の北京におけるカトリックの研究活動に関する資料収集を行った。

都馬バイカルは、モンゴル国に行き、主にモンゴルキリスト教に関する文献収集とインタビュー調査を実施した。さらにウランバートルで開催された『チンギス・ハーン生誕860周年記念国際シンポジウム』に参加し、研究発表した。徐亦猛は、19世紀後半から中国における西洋ミッションの宣教戦略が根本的变化したことに関して、宣教師を中心とした従来の宣教モデルから、自立と本土化の理念のもとに新しい宣教モデルへと展開する研究を進めた。

コロナの影響により、当初の研究計画は大幅な変更を余儀なくされたが、口頭発表、論文発表、単著、編著の出版などで一定の成果を上げた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 徐亦猛	4. 巻 7
2. 論文標題 中国少数民族地域における西洋伝道会の宣教活動についての考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福岡女学院大学国際キャリア学部紀要	6. 最初と最後の頁 25-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中生勝美	4. 巻 2
2. 論文標題 戦後日本の人類学史（2）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会科学研究	6. 最初と最後の頁 123-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中生勝美	4. 巻 5
2. 論文標題 鳥居龍蔵の満蒙調査：慶陵研究の系譜	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鳥居龍蔵研究	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 徐亦猛	4. 巻 7
2. 論文標題 Comparative Studies on Confucian and Christian Ethics	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Faculty of International Career Development Fukuoka Jo Gakuin University Bulletin	6. 最初と最後の頁 31-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 徐亦猛	4. 巻 18
2. 論文標題 中国におけるプロテスタント教会の先駆的動向	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 比較文化	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中生勝美	4. 巻 11
2. 論文標題 中国キリスト教の研究状況と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 桜美林論考 法・政治・社会	6. 最初と最後の頁 31~49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 徐亦猛	4. 巻 17
2. 論文標題 現代中国におけるキリスト教に関する考察ー宗教政策と教会の動きを中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 比較文化 福岡女学院大学大学院人文科学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 1~14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 都馬バイカル	4. 巻 論文集
2. 論文標題 モンゴルにおけるスウェーデンの宣教所	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 20世紀のモンゴル世界	6. 最初と最後の頁 28~38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中生 勝美	4. 巻 1
2. 論文標題 台湾原住民の宣教と社会運動：タオ族の反核運動を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福岡女学院大学キリスト教センター・徐亦猛編『東アジア時於ける平和と和解』かんよう出版	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徐亦猛	4. 巻 1
2. 論文標題 日中キリスト者の平和思想の比較	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福岡女学院大学キリスト教センター・徐亦猛編『東アジア時於ける平和と和解』かんよう出	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 1件／うち国際学会 4件）

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 スウェーデン宣教師が見たチャハル地域のモンゴル —スウェーデン児童文学作家ウルフ・ニルソン（Ulf Nilsson）の源流及び『長い灰色の歯』について—
3. 学会等名 日本モンゴル文学会2021年春季研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 1937年頃のモンゴル社会実像 スウェーデン宣教師が撮った写真から
3. 学会等名 昭和12年学会第3回研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 モンゴル人仏教徒の改宗－エンヘビリグとキリスト教
3. 学会等名 モンゴル宗教文化研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 モンゴル人キリスト教信者－エンヘビリグとその墓碑を巡って
3. 学会等名 日本モンゴル文学会2021年秋季研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 徐亦猛
2. 発表標題 日本教會大學中の基督教教育－以福岡女學院大學為例
3. 学会等名 Whole Person Education Workshop, Jointly organized by Hong Kong Baptist University, Center for Sino-Christian Studies, HKBU, Department of Religion and Philosophy, HKBU (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 徐亦猛
2. 発表標題 日本華人教會的成長史－以神戸基督教改革宗長老會為例
3. 学会等名 第十二屆近代中國基督教史國際研討會，香港：香港浸會大學歷史系、建道神學院基督教與中國文化研究中心合辦（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 徐亦猛
2. 発表標題 新文化運動の旗手陳独秀の宗教觀の変遷
3. 学会等名 第72回キリスト教史学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 徐亦猛
2. 発表標題 中国少数民族におけるキリスト教伝道史に関する研究－中国内地会を中心に
3. 学会等名 アジアキリスト教交流史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 徐亦猛
2. 発表標題 二戦期間的の日本女子基督教教育 - 以福岡女学院為例
3. 学会等名 The Future of Whole Person Education in East Asian Higher Education: Its Philosophy and Endeavor from Within and Abroad (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 サイチンガの作品におけるモンゴル社会－スウェーデン宣教師エリクソンの写真との比較
3. 学会等名 日本モンゴル協会定期講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 都馬バイカル
2. 発表標題 スウェーデンの「モンゴルミッション」と「モンゴルジャパンミッション」について
3. 学会等名 モンゴル文化教育大学・桜美林大学共催国際シンポジウム「モンゴルと日本 過去・現在・未来」(国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 都馬バイカル	4. 発行年 2021年
2. 出版社 桜美林大学出版社	5. 総ページ数 288
3. 書名 スウェーデン宣教師が写した失われたモンゴル	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	都馬 バイカル (Toba BaiGali) (00434457)	桜美林大学・リベラルアーツ学群・教授 (32605)	
研究分担者	徐 亦猛 (Xu Yi-meng) (00638265)	福岡女学院大学・国際キャリア学部・教授 (37118)	
研究分担者	長谷川・間瀬 恵美 (MASE-HASEGAWA Emi) (90614115)	桜美林大学・リベラルアーツ学群・准教授 (32605)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	漢語基督教文化研究所	建道神学院		
その他の国・地域	台南神学院			